

リスク工学専攻演習グループ研究

1班:信頼形成に関する調査研究

荒井健太 羽生裕造 山口武洋 Ahmad Khushairy

指導教員：掛谷 英紀

目次

1. 研究の背景
2. 先行研究
3. 本研究の概要
4. まとめ

1 研究の背景



研究の背景(1)

- 信頼性とリスクコミュニケーション

情報が正しくとも、
発信者の信頼によって、
その情報が信頼されない。



リスクコミュニケーションの失敗

例 BSE・原子力・・・

BSE問題

農水省：

「BSE」は日本ではおこらない

実際に発生(2001年9月)

食品安全委員会(2005)：

「汚染量は無視できる範囲」



いまだ全頭検査を行っている
(費用 年間100億円)

研究の背景

- 信頼の定義

- 該当リスクマネジメントを任せても、
まずいことにならないだろうと期待

信頼がない 失敗してしまうかも

BSE: 一度失敗 信頼できない

信頼とは

信頼がなければ話を信じてもらい難い

↓

信頼はどのように形成されるか

↓

効果的なリスクコミュニケーション

2 既存研究

伝統的な(社会科学)信頼モデル と SVSモデル

伝統的な信頼のモデル (二要因モデル)

中谷内一也, リスクのモノサシ, NHK出版

- 能力についての認知
 - ・ ある問題に対して**専門知識, 経験**の有無
- 誠実さについての認知
 - ・ ある問題に対して**適切な情報開示**を行うか

Salient Values Similarity(SVS)モデル

- Value Similarityに関する認知
 - ・ ある問題に関して、自分と相手が**主要な価値を共有**しているかどうかの認知

SVS(Earle & Cvetkovich, 1995)

言論責任保証

非営利団体 → 収入 (委託金) → 記者

非営利団体 → 収入 (購読料) → 一般読者

非営利団体 → 収入 (投票) → 一般読者

非営利団体 → 収入 (委託金の情報開示) → 一般読者

風評被害

言論責任保障

- BSE問題
A新聞
「BSEの潜在的感染者が
国内に多くいる」

10年後に評価

患者は一人もいなかった
委託金没収

言論責任保証

言論責任保証を行う

信頼を得るのか

信頼を得るとしたら

**どのような人
条件**

本研究目的

- 知識レベルを考慮した信頼形成時の
 - SVSモデル優位性検証
 - 伝統的モデル優位性の有無
 - 信頼性向上としての言論責任保証

3 アンケート調査及び解析

調査方法

- アンケートを用いたデータ収集
- 結果の解析(相関解析, 可視化)
- 傾向分析
- 考察

アンケート調査

- 筑波大・院生対象にアンケート
 - 文系男子34, 文系女子58
 - 理系男子104, 理系女子5 計201
- 調査期間
 - 2007年7月16日から9月27日
- 調査項目
 - 信頼, 能力認知, 公正さ認知, SVS認知, 問題に対する関心
- 対象問題
 - 自動車事故, 遺伝子組換え食品, 喫煙

理系男子 自動車事故に関する相関

	警察庁	Maker A	遺族会	B教授
能力	0.498	0.424	0.323	0.233
公正さ	0.419	0.455	0.240	0.269
SVS	0.535	0.540	0.386	0.286

文系男子 自動車事故に関する相関

	警察庁	Maker A	遺族会	B教授
能力	0.251	0.427	0.352	-0.060
公正さ	0.478	0.663	0.376	0.420
SVS	0.106	0.624	0.277	0.272

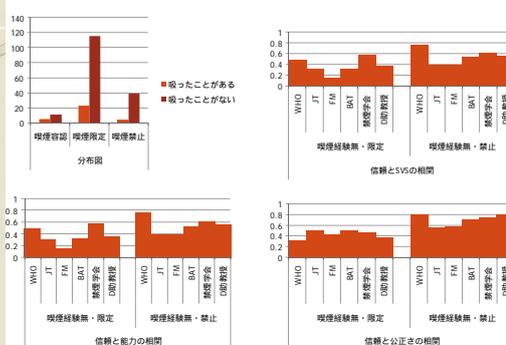
文系女子 自動車事故に関する相関

	警察庁	Maker A	遺族会	B教授
能力	0.203	0.232	0.193	0.191
公正さ	0.304	0.349	0.183	0.207
SVS	0.664	0.440	0.494	0.438

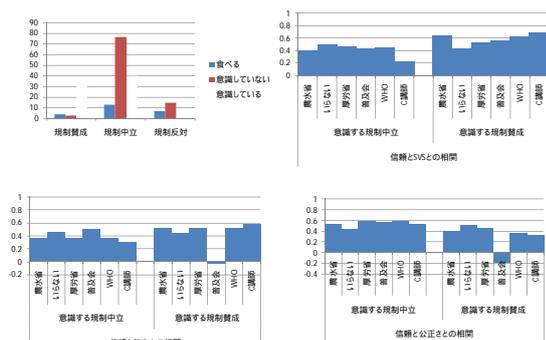
考察1

- 文系女子、理系男子は信頼とSVS認知の相関が高い
- 文系男子は信頼と公正さ認知の相関が高い

受動喫煙に関して



遺伝子組み換え食品に関して



考察2

- 利害関係に素直な意見を主張する集団はSVS傾向が強い。
- SVSとその他の相関も類似している。

まとめ

- SVSモデルが優位でない場合の存在
- 予想に反した結果が出た
- 伝統的モデル優位性は見られなかった
- 利害関係が絡むとSVS認知と信頼の相関が顕著に見られた